

いろどりビジネス

上勝は日本国内で使用される装飾用付け合わせ（つまもの）の約 80%をいろどりと呼ばれるビジネス戦略を通して供給しています。いろどりの 300 品目のラインナップが示すように、幅広い色合いの色彩に富んだつまものがあり、日本料理を見た目に美しく、また季節感を高めます。多くの品種は、特定の意味や役割を持っています。梅の花は春の訪れを告げ、蓮の葉は夏に涼しさを感じさせ、また、赤いモミジの葉は秋の気配を感じさせます。

1981 年の大寒波は盛んだった上勝のみかん事業を壊滅させました。この直後に、横石知二は、葉っぱや花を集めて付け合わせとして高級日本料理店に販売するというアイデアを持ちました。まさにそのことを実行するため、彼はいろどりを 1986 年設立し、以来、この事業は年商 2 億 6000 万円の事業に成長しました。約 200 人の供給者が登録されています。約 80%が女性で、平均年齢は 70 歳です。供給者は、その年齢にもかかわらず、スマートフォンやタブレットを使ってどの飲食店が注文を入れたかを確認し、その注文に応じるためお互い競い合っています。ライバルよりも先に受注するには、素早い思考と反応、そして競争が重要です。供給者は、注文を確保した後、自分の畑に葉や花を摘みに行き、梱包し、迅速に出荷して、タイムリーな配達を保証します。仕事を持つことは高齢の住民達にポジティブな考え方と、より明確な人生の方向性を与え、彼らの物語は映画化されて 2012 年の人生、いろどり(*It's a Beautiful Life -- Irodori*)になりました。